

令和 8 年度 浜松市 英語教育改善プラン

言語や文化、年齢が異なるあらゆる他者の多様性を尊重し、協働しながらグローバルな社会で活躍できる人材の育成。

目標

○言葉や文化が異なる人や大人を含む年齢が異なる人との交流は楽しみであると回答した児童の割合（R7：75.0％ → R8：目標値 80％）

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果において、「英語の勉強が好き」と回答した児童の割合がR5と比べ増加した。

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果において、「英語の勉強は大切だと思う」と回答した児童の割合がR5と比べ増加した。

③3・4年生におけるALTの活用時数は増加傾向にあるものの、授業参画割合には課題がある。

④「授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合」について、国の平均以上を目指す。（参考：R5：88.5%）

⑤「『児童が学習者用デジタル教科書を活用した授業』を実施した学校の割合」、「家庭学習におけるICT機器の活用頻度」において、「行っていない」と回答した割合について課題が見られ、改善が必要である。

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①②③授業改善研修や経験研修、学校訪問において、言語活動の好事例と授業改善案を周知したことで、言語活動を設定した上での授業改善が進んでいると考えられる。一方、教員の指導経験による部分が大きく、授業改善は学校間で差が見られる。

④ALTの配置人数を2名増員したことで、活用時数が増加した。一方、ALTの授業内外における効果的な参画方法や連携した指導の在り方について、十分に周知されていないことが要因と考えられる。

⑤授業や家庭学習におけるデジタル学習基盤の活用事例とその効果等が十分に周知されていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

「話すこと[やり取り]」の力向上に向けた取組（1）

①②③ALTの効果的な参画による授業改善の促進

・ALTとの効果的なチーム・ティーチングについて理解を深めることを目的とした、JTEとALTによる全校悉皆の「外国語担当教員研修（ALTとの連携）」を実施し、言語活動を通じた授業改善とALTの授業内外における参画を加速させる。
・ALTの配置数増員に向け、研究員研修において、授業内外におけるALTの効果的な活用方法と、児童の資質・能力育成や学習意欲向上についての成果検証を行う。

「話すこと[やり取り]」の力向上に向けた取組（2）

①②③ICTを効果的に活用した授業改善の促進

・「外国語授業における生成AIの活用事業」として市の指定教育研究校において、AI(World Classroom)を活用した授業改善の可能性とその成果について検証を行い、AI普及のための予算化を目指す。また、その効果を周知するための研修や授業公開を実施する。
・学習者用デジタル教科書などデジタル学習基盤の効果的な活用の好事例やその教育的効果を周知するために、「授業改善リーフレット」に基づいた研修や学校訪問での指導を行う。
・「家庭学習の手引き ～ICT活用編～」を活用し、家庭学習における学習者用デジタル教科書の活用方法を周知する。

【一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組について】

・採用選考試験において、英語資格のCEFRレベルに応じた加点や中学校英語免許状による加点を行い、小学校受験希望者に英語の力の必要性を示す。

①CEFR B2相当（英語検定準1級等）

②CEFR B1相当（英語検定2級等）

③中学校免許状 外国語（英語）

令和 8 年度 浜松市 英語教育改善プラン

言語や文化、年齢が異なるあらゆる他者の多様性を尊重し、協働しながらグローバルな社会で活躍できる人材の育成。

目標

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：54.0%⇒R8目標値：57.5%）

○言葉や文化が異なる人や大人を含む年齢が異なる人との交流は楽しみであると回答した生徒の割合（R7：70.6%⇒R8目標値：80%）

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①国の目標値には届かないものの、CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合は、年々増加傾向にある。
(R6：52.4%⇒R7:54.0%)
②「AIの活用による英語教育強化事業」に参画した結果、生徒の英語力、学習意欲に係る顕著な成果が得られた。
③市学力調査において、CEFR A1 相当の調査問題を作成し、生徒の英語力を測定した結果、妥当な結果が得られた。

未だ改善が必要な点

①授業改善の傾向がみられるものの、R5 全国学力・学習状況調査「話すこと [やり取り]」の結果から継続した課題と捉え、言語活動の充実による発信力の強化が必要である。
②全ての学校のうち、英語の授業において、「学習者用デジタル教科書の活用」を実施した学校の割合が、国の平均を下回っており、デジタル学習基盤の活用において、改善が必要である。

2. 要因分析

①②③①授業改善研修や経験研修、学校訪問において、言語活動の好事例と授業改善案を周知した。それにより、言語活動を設定した上で資質・能力の育成につながる授業改善が進んでいると考えられる。一方、教員の指導経験による部分が大きく、授業改善は学校間で差が見られる。また、市学力調査やMEXCBTの調査問題を例に、CEFR A1相当の英語力について指導したことで、妥当な評価ができるようになってきている。

①①生徒の英語力につながるALTの授業内外における効果的な参画方法や連携した指導の在り方について、十分に周知されていないことが要因と考えられる。

②授業や家庭学習におけるデジタル学習基盤の活用事例とその効果等が十分に周知されていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

「話すこと[やり取り]」の力向上に向けた取組（1）

①③①ALTの効果的な参画による授業改善の促進

・ALTとの効果的なチーム・ティーチングについて理解を深めることを目的とした、JTEとALTによる全校悉皆の「外国語担当教員研修（ALTとの連携）」を実施し、言語活動を通じた授業改善とALTの授業内外における参画を加速させる。
・ALTの配置数増員に向け、研究員研修において、授業内外におけるALTの効果的な活用方法と、資質・能力育成や学習意欲向上についての成果検証を行う。

「話すこと[やり取り]」の力向上に向けた取組（2）

①②①②ICTを効果的に活用した授業改善の促進

・「外国語授業における生成AIの活用事業」として市の指定教育研究校において、AI(World Classroom)を活用した授業改善の可能性とその成果について検証を行い、AI普及のための予算化を図る。また、その効果を周知するための研修や授業公開を実施する。
・学習者用デジタル教科書などデジタル学習基盤の効果的な活用の好事例やその教育的効果を周知するために、「授業改善リーフレット」に基づいた研修や学校訪問での指導を行う。
・「家庭学習の手引き ～ICT活用編～」を活用し、家庭学習における学習者用デジタル教科書の活用方法を周知する。

①③学力調査による、英語力向上に向けたPDCAサイクル

・生徒の英語力を測定するために、CEFR A1相当の調査問題を出題する。
・授業改善の方向性を示すために、目的や場面、状況等を設定した言語活動のモデルとなる調査問題を出題する。
・課題把握により、取組の見直しにつなげる。

令和 8 年度 浜松市 英語教育改善プラン

言語や文化、年齢が異なるあらゆる他者の多様性を尊重し、協働しながらグローバルな社会で活躍できる人材の育成。

目標

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：A2以上 72.6%、B1以上 44.6% ⇒ R8：A2以上85%以上、B1以上70%）
○言葉や文化が異なる人や大人を含む年齢が異なる人との交流は楽しみであると回答した生徒の割合（R7：71.3% ⇒ R8目標値：80%）

- ☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①英語の授業におけるICT機器の活用状況が、全ての項目において大幅に改善した。
- ②英語担当教師の英語力の状況について、全ての教師がCEFR B2相当以上の英語力を身に付けている。
- ①CEFR A2相当以上の英語力を取得するまたは有すると思われる生徒の割合が目標値を下回った。
(R6:89.1%⇒R7:72.6%)
- ②英語の総授業時数における、ALTの授業への参画時数の割合が50%未満となっており、改善の傾向が見られていない。
- ③英語担当教師の英語使用状況について改善が必要である。
(R6:50.0%⇒R7:16.7%)

2. 要因分析

- ①ICTの効果的な活用方法の好事例を周知したことが改善につながったと考えられる。
- ②「教師の英語力・指導力向上のための実践的オンライン研修」受講者が、校内において研修内容を共有し、展開していったことが要因と考えられる。また、外部検定試験の特別受験制度の活用を進めたことも要因と考えられる。
- ①適切な評価に向けた、CEFR A2相当以上の英語力についての周知が不十分であったことが要因であると考えられる。
- ②ALTとの効果的なチーム・ティーチングによる言語活動の充実について、理解が十分でないことが要因と考えられる。
- ③領域ごとに言語活動の状況に偏りがあったことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ②①②③ALTの効果的な参画による授業改善の促進
 - ・ALTとの効果的なチーム・ティーチングについて理解を深めることを目的とした、JTEとALTによる全校悉皆の「外国語担当教員研修（ALTとの連携）」を実施し、言語活動を通じた授業改善とALTの授業内外における参画を加速させる。
 - ・ALTの配置数増員に向け、研究員研修において、授業内外におけるALTの効果的な活用方法と、資質・能力育成や学習意欲向上についての成果検証を行う。
- ①①③ICTを効果的に活用した授業改善の促進
 - ・「外国語授業における生成AIの活用事業」として市の指定教育研究校において、AI(World Classroom)を活用した授業改善の可能性とその成果について検証を行い、AI普及のための予算化を図る。また、その効果を周知するための研修や授業公開を実施する。
 - ・学習者用デジタル教科書などデジタル学習基盤の効果的な活用の好事例やその教育的効果を周知するために、授業改善リーフレットに基づいた研修や学校訪問での指導を行う。
 - ・MEXCBTの調査問題を例に、CEFR A2 相当の英語力について周知し、妥当な評価ができるように指導する。
- ①②①②③教育センター主催の授業づくり研修や、静岡県教育委員会が行う研修への参加を奨励していく。

目標達成状況一覧表

浜松市教育委員会

令和8年度様式（様式2）

浜松市教育委員会管轄の高等学校は1校のみのため、一部非公表としています。

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）											
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）											
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100.0%	100.0%	100.0%	66.7%	100.0%		100.0%		100.0%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		80.0%	66.7%	80.0%	66.7%	80.0%		80.0%		80.0%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表（％）	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		達成状況の把握（％）	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		70.0%	90.9%	90.0%	100.0%	90.0%	100.0%	90.0%		100.0%	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		80.0%	66.7%	80.0%	50.0%	80.0%	16.7%	80.0%		85.0%	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50.0%	48.0%	50.0%	52.4%	55.0%	54.0%	57.5%		60.0%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		88.0%	86.8%	90.0%		90.0%		90.0%		90.0%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		95.0%	76.4%	95.0%		95.0%		95.0%		95.0%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表（％）	55.0%	47.9%	55.0%		60.0%		60.0%		60.0%	
		達成状況の把握（％）	80.0%	64.6%	80.0%		80.0%		80.0%		80.0%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50.0%	42.9%	50.0%	42.9%	50.0%	65.1%	60.0%		60.0%	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		85.0%	80.6%	85.0%		85.0%		85.0%		90.0%	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	92.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表（％）	33.0%	36.5%	50.0%		50.0%		50.0%		60.0%	
		達成状況の把握（％）	68.0%	70.8%	80.0%		80.0%		80.0%		90.0%	